

# コウノトリ但馬空港の活性化に向けた空港及び周辺エリアのあり方に関する基本方針策定業務

## 事業目的

開港から 30 周年を経過し、但馬空港を取り巻く環境が変化する中、本市では但馬空港を単なる「空の玄関口」にとどまらず、豊岡市や但馬地域全体の持続的なまちづくりに寄与する重要な地域資源として位置付けている。

また、兵庫県が設置した「コウノトリ但馬空港のあり方懇話会」は最終報告において、今後の但馬空港の役割とあるべき姿を示すとともに、その実現にむけた取組方策等について幅広い提言を行っている。

本業務は、この最終報告に基づき、本市で整理を進めている「但馬空港クロスモビリティハブ構想（案）」の考え方を踏まえ、空港及び周辺エリアの活用方法や可能性を検討し、豊岡市及び但馬地域の活性化につながる方向性をとりまとめた「基本方針」を策定するものである。

## 1. 計画準備

本業務を円滑に実施するため、作業の進め方、実施工程、実施体制等を整理した業務計画書を作成する。

## 2. 素案の策定

### （1）条件等の整理

「コウノトリ但馬空港のあり方懇話会」の最終報告の内容について整理、分析を行う。

また、但馬空港及び周辺施設整備に関するこれまでの経緯、要望、関連計画及び課題を整理する。同時に、現地調査及び関係機関協議等を行い、空港及び周辺エリアにおける課題、法規制、その他の条件を整理する。法規制の整理にあたっては、空港周辺に所在する施設であることを踏まえた整理を行う。

さらに、但馬空港の現状（利用状況、経営状況、管理運営方針、現況インフラ）及び周辺環境の現状（市内関連施設、交通網、交通量等）を踏まえ、課題を整理するとともに、市などが実施する関連事業（企業誘致・人材育成等）との整合性を整理する。

これらを総合的に分析し、本市で整理を進めている「但馬空港クロスモビリティハブ構想（案）」の考え方を踏まえ、但馬空港の施設及び周辺エリアを最大限活用するための基本方針策定に向けた前提条件を整理する。

### （2）他空港における事例収集と分析

他空港における空港周辺エリアの利活用事例について調査・分析・評価を行う。

事例の調査・分析・評価については、「コウノトリ但馬空港のあり方懇話会」の最終報告に基づき、豊岡市が目指すまちづくりの指針である「創生ファイブ」及び

「コウノトリ但馬空港クロスモビリティハブ構想（案）」との整合性に留意しながら実施する。

特に但馬空港が広域防災拠点としての更なる機能強化を検討している現状を踏まえ、能登半島地震の際に防災拠点として機能した能登空港の事例や、交通結節点、市民交流等の拠点としての機能の導入等、様々な視点から多くの事例を収集整理した上で、能登空港の事例を含め本業務の目的に有効となる事例について、詳細に分析し基本方針の策定に繋がるよう取りまとめる。

調査において、現地調査が必要と考える場合は、その必要性や内容について提案し、実施の有無、内容、費用については協議にて決定するものとする。

### **（３）基本方針の策定**

（１）（２）の結果を踏まえ、空港及び周辺エリアの多角的な活用に向けた基本的な考え方や方向性を取りまとめ、「基本方針」を策定する。

### **（４）機能導入及びゾーニングの検討**

（３）を実現するために必要となる機能の検討及び施設のゾーニング計画を立案し、最適案を整理する。

## **３．報告書の作成**

以上の検討結果を整理した報告書を作成する。

## **４．打合せ協議**

業務の履行に当たって実施する打合せは、業務着手時、中間打合せ２回程度、業務完了時の計４回程度とする。

## **５．成果品**

- |         |    |
|---------|----|
| ①報告書    | １部 |
| ②電子データ等 | １部 |